

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス フタール岸和田		公表日		R8 年 5 月 8 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	1人あたり6㎡以上を確保している。また、一人につき一つ机を用意することで利用児童が課題に向かいやすいよう工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	今年度の人員配置基準を満たした人員配置を行い、支援している。スタッフの中には、臨床心理士や公認心理師、保育士、小学校教諭の資格を持つ者を配置している。	送迎に対するニーズには応えられていない部分があるため、送迎ドライバーの増員に努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	玄関や相談室への出入口口等、段差を作らない配慮をしている。スタッフルームの出入口にはスロープを設置している。また、事業所内の掲示物は写真やイラストカードを用い視覚支援に努めている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	毎日支援開始前に室内の整理整頓や清掃、消毒業務を行っている。また、体の大きさや活動内容に合わせて机や椅子の配置換え・撤去などを行い活動スペースを確保している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	相談室兼静養室としての個別スペースがある。子どもの状態(体調不良含む)によって使用しており、使用の際にはスタッフ、他利用児への周知を行い個別の空間を確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1	朝のミーティング時にその日提供する課題内容のプレゼンテーションを行い、課題の目的などをスタッフ全員で確認している。振り返りについては出来る範囲で行い、共有事項等あれば引き継ぎを行っている。	時間に限りがあることから、より効率的な目標設定と振り返りができるようミーティングを構造化していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	頂いた意見をもとに改善に努めている。WEB上での提供記録公開の他、事業所公式LINEにて活動の様子(写真)を提供している。	今後も保護者等の意向等の把握、改善に努めていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	日々のミーティングやスタッフ会議等で職員の意見を把握する機会を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8		今後、利用時期について検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	法人内の研修だけでなく、行政や他団体主催の研修などオンライン形式も含め積極的に参加している。また参加できなかったスタッフに対して、参加したスタッフが研修内容を伝える機会を設け、内容を共有している。	今後も事例検討会、防災、感染症対策、虐待防止など法人外の研修に積極的に参加していく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	事業所内で内容を吟味検討し、支援プログラムを作成している。作成した支援プログラムは、事業所ホームページにて公表している。	

適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	本人や保護者からのヒアリング内容、提供された資料等を総合的に分析し、計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1	児童発達支援管理責任者が作成した原案をもとにスタッフ間で共有、検討し必要に応じて内容を更新している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	計画についてスタッフ間で情報共有をする機会を設け、計画に沿った支援が提供できるよう努めている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2	保護者のヒアリングや、支援時における利用児童の理解、保護者から提供された資料等を総合的に分析している。	保護者から提供された発達検査結果等は状況把握のツールとして用いることがある。今後、VinelandやS-M社会生活能力検査をスタッフ全員で周知できるよう研修の機会を設ける予定。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	プログラムの内容について、本人支援に対しては5領域を考慮したプログラムを作成、公表している。さらに本人支援だけでなく、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携ができるプログラムを作成している。また季節の行事についても積極的に企画・参加をしている。プログラム作成・実施をするスタッフについても資質の向上を図る体制を構築している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	活動プログラムの立案担当者を中心に、複数のスタッフで試作・試行している。その後、改善点や安全面への配慮等について検討・調整を行い、実施に至っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	日々成長、変化していく利用児童の状況把握を行い、プログラム内容を検討、作成している。工作課題、コミュニケーション課題、みんな遊びなど、連続して同じカテゴリーが続かないこと、支援カテゴリー（言葉、手先など）においても同じ課題提供とならないよう工夫している。毎回子どもの興味・発達・関係性などに配慮し、プログラムの目的やねらいを決めている。平日では、語彙力や言葉の使い方、手先の扱い等、利用児童のニーズに基づいた課題設定を行い、日々継続して取り組める課題を提供している。休日や長期休暇では、余暇の過ごし方にも視点を広げた課題提供を行っている。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	放課後等デイサービス計画に基づきつつ、支援中の様子や保護者からの聞き取りなどを踏まえ、子どもの日々の状況を個別と集団の双方の面から分析し、より適した支援ができるよう検討、実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	支援開始前に必ず打ち合わせを行い、送迎含む一日の支援の流れ、支援内容、前日からの引継ぎ事項等を確認、共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	児童の様子やプログラムの内容等、共有する時間を設けるよう努めている。	時間に限りがあること、スタッフによって勤務時間が異なることから、当日に十分な振り返りが出来ない場合がある。短時間でも伝えられるようミーティングを構造化していく。共有事項については記録を残す、翌日のスタッフに引き継ぐ等、スタッフ全員に周知するよう努めている。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	支援時間中の記録を保存している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	利用児童についてスタッフ間で会議（現状把握、支援の振り返りなど）を行っている。その後、保護者との面談を行い、計画の見直し及び作成を行っている。また、保護者と事業所で利用児童に関する普段の様子や気になる点について積極的に情報共有を行い、定期的な面談時以外でも必要に応じて計画の見直しを行っている。その際はスタッフ間で情報共有をしたうえで、支援の改善に繋げている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせず支援を行っているか。	8	0	自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、余暇の提供はプログラムの立案と実施を通して組み合わせを考えて行っている。また、日々の活動の中で不足しがちな地域との交流の機会については、休日や長期休暇等を活用し、地域開催のイベント参加等に取り組んでいる。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	利用児童の現状を踏まえた上で、自己決定を行う支援内容を取り入れたプログラムの作成及び実施をしている。また必要な利用児童については、利用児童自身の目標設定をサポートする支援や、利用児童の目標達成に向けたステップを踏む支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	会議には、主として児童発達支援管理責任者が出席しており、必要に応じて常勤職員も参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	提携医療機関からの情報や担当者会議、日々のお迎え時の教員等との情報共有も含め、積極的に関係機関との連携を行う体制を整えている。	今後は、ニーズに合わせて担当者会議の開催を呼び掛けるなど積極的に連携を深めていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	0	8	学校送迎について、都度管理者が学校へ向かい、送迎時の対応や学校との連絡方法を共有している。また、保護者に対し月間予定表の控えをいただけるよう依頼し、その予定表をもとに連絡調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	0	家庭と各関係機関の連携ファイル（岸和田市あゆみファイル等）を用いている。また、同法人の児童発達支援事業所から移行する児童については移行前から引継ぎや保護者を交えた面談を行い、情報共有と相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	7	今年度は該当児童なし。	今後障害福祉サービス事業所への移行がある場合は、情報共有を行う予定。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	4	障害者基幹相談支援センター主催の研修の機会を利用している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	児童館や地域が主催するイベントの情報を積極的に取り入れ、可能な限り参加することで地域の子どもと活動をともにする機会を設けている。	引き続き活動の場を探し、参加していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	3	岸和田市の放課後等デイサービスネットワークへ参加し、合同の研修や地域に向けた情報誌の作成などの活動に取り組んでいる。	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	日々のやり取りとして、送迎時や電話、提供記録等を通じて理解の共有を図っている。また、モニタリング以外にも状況に応じて面談の時間を設定し、情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	8	日々の様子を共有する中で、保護者の悩みなどに寄り添い理解に努めている。少しでも日常生活に活かされることを目的とした助言を行っている。	子どもの様子を共有する中で、声掛けや支援方法などを適宜保護者にお伝えしている。研修については研修の情報提供、保護者向けの研修会の企画等、ニーズを踏まえた上で検討していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時に説明している。また、プログラム等で実費負担が別途発生する場合には、その旨を事前に保護者へ連絡するよう徹底している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	保護者の意思や意向についてはモニタリングの場で、利用児童の現状と課題点を共有したうえで、その意思を反映した目標を設定し共有を行っている。また利用児童の意思については支援中の様子や、必要に応じて本人と面談をすることで意思を聞き取り、支援に反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	モニタリングで共有した目標を放課後等デイサービス計画に明文化し、保護者に説明を行ったうえで、署名してもらっている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	電話や面談の中で、保護者の悩みの理解に努め、支援中の児童の様子から窺える理解や、それに基づいた助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	8	保護者との連絡や面談等の中で、保護者から保護者同士の交流や保護者会へのニーズがある場合にはその詳細について聞き取りを行っている。	保護者のニーズを改めて把握した上で、実施に向けた検討を行いたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	苦情受付担当（管理者）を設定している。苦情が発生した場合には、管理者を中心にスタッフ間において原因と改善策を検討し、迅速に対応している。	対応の体制について、スタッフ間において定期的に共有を行い、今後も迅速かつ適切に対応していけるよう努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	事業所のLINEやInstagramによる発信に積極的に取り組んでいる。	文書による発信には至っていないが、今後はブログの活用も検討していく。また、WEB上で活動概要や行事予定を定期的に配信出来るよう体制を整備していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報に関する書類やデータは鍵付きキャビネットに保管している。スタッフの入社時・退社時には秘密保持に関する誓約書を交わし、個人情報保護法の観点から意識を高められるよう促している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	選択肢を用いる、イラストで提示するなど工夫し、利用者が意思の発信をしやすくなるよう努めている。また情報を伝える際は、児童（保護者）が十分に理解し得る方法を考え、正確に伝わるよう努めている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	8		保護者や利用児童のニーズ、また方法・目的を精査し、検討していく。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	各種マニュアルは必要に応じて随時変更・更新を行い、すぐに確認出来るよう事務所に保管している。また、応急救護や感染症対策等研修への参加を積極的にこなしている。	マニュアルの内容については必要に応じて適宜修正・更新を行う。また、外部研修への参加だけでなく、消防署や保健所等地域の社会資源を活用し、外部講師を招いた事業所内での講習を定期的に開催する事も今後検討していく。

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	作成した業務継続計画に基づき、地震等を想定した避難訓練を中心に利用児童、スタッフで定期的に行っている。また防災学習の一環として地域の消防署や防災センター等の施設見学も企画・実施している。	災害の発生を想定したスタッフのみの訓練（通報訓練や非常時の救出等）も今後積極的に取り入れていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	服薬やてんかん発作等については保護者に事前の聞き取りを行っている。予防接種については、契約時に母子手帳の予防接種欄の控えを取り個人情報ファイルに保管している。	状況に応じて保護者との情報共有に努める。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	アレルギーの有無について契約時に聞き取りを行い、書面にて確認している。その際必要に応じてアレルギー検査の結果を保護者に提出していただいている。また、現状、医師の指示書による対応が必要な児童は在籍していないが、利用児童に提供するおやつを購入する際やクッキングを行う際には軽度のアレルギーであっても該当する原材料が含まれるものは除外している。また、購入したものは利用児童に提供する前に別のスタッフが成分表示を再度確認するなど事故防止を徹底している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	作成した安全計画をもとに、通常支援からスタッフの役割分担を決定し支援にあっている。また事業所外支援については、安全確認のための下見を行い、あらゆる想定を行って安全に配慮している。災害時についても同様に様々な事態を想定して役割分担を全スタッフに共有した上で、訓練を行っている。保護者に対しては、災害時の伝言ダイヤルの使い方を周知し、緊急避難所についても共有を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	契約時に緊急時（体調の急変や災害時、警報発令時の対応等）の連絡方法と事業所がとる対応について紙面を使った説明を行い対応を共有している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット事例を作成し、共有している。	事例としてあがった内容をスタッフ間で共有し、よりよい支援に繋げていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	虐待の防止と対応の手引きを作成し、スタッフに周知している。	虐待防止の為の対策を検討する会を開催するとともに、その結果について研修の機会として周知していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	運営規定にも記載し契約時に保護者にも丁寧に説明を行っている。	定期的な確認・共有をしていく。